

明日に架ける橋

2025年度 進路だより 第6号
兵庫県立明石高等学校進路指導部
2025年10月15日発行

共通テスト出願が終わりました

9月16日から2026年度共通テストの出願が始まりました。今回の共通テストから全受験生が、web出願となり、事前に丁寧に説明会を行いました。先日、出願が確定し、3年生(78回生)は207名の出願となりました。昨年が205名でほぼ同数で、一昨年は160名でしたので、そこより大幅増になっています。

先月の「進路だより第5号」で共通テストの必要性をお伝えしましたが、よく理解してくれたうえで多くの出願になったと思います。1・2年生は進路実現に向けて長期計画を立て、3年生の1月から逆算して、今のうちに基礎学力をしっかりとつけましょう。

推薦入試が始まっています

2学期になり、推薦入試(総合型選抜)を開始する大学・専門学校も出てきました。11月には学校推薦型選抜の公募制入試が本格化します。また9月には2度にわたって、学校推薦型選抜の指定校推薦の校内推薦会議を実施しました。明高生に人気の高い関関同立を中心に高倍率の大学が多く、校長先生はじめ先生方は非常に長い時間、慎重審議を行いました。明石高校の指定校推薦志望についての指導確認事項は以下の通りです。

1. 指定校の出願希望は第1志望大学・学部であることを原則とする
2. 推薦会議においては、学習成績だけでなく総合的に判定する

上記原則を踏まえて、出願希望者の審議を慎重に行いました。大学が求める学習成績に達しているか、学習以外の課外活動・特別活動などを頑張ってきたか、出席状況・学習態度・提出物などは良好であるか、当該大学に入学しても授業についていけるだけの模擬試験成績を収めているか、また出願希望校が模擬試験などで第1志望になっているか、など明石高校が責任を持って大学に推薦できる生徒をあらゆる側面から検討しました。

その結果、67名の3年生に対して、大学・専門学校の指定校推薦出願を認めることになりました。67名は現在、出願書類作成、特に志望理由書作成で進路指導部の先生から指導を受けている最中です。特に志望理由書は膨大な量をしっかりと書く必要がありますので、人によっては何週間もかかって書いている状況です。まもなく面接や口頭試問の指導も始まります。入学試験は、大学・学部によって異なりますが、面接・口頭試問・小論文など多岐に渡ります。

多くの大学が、指定校で合格した生徒に、共通テストの受験を義務付けたり、入学前課題を課したりしています。これは、指定校で入学した学生が一般入試で入学した学生に比べて学力が低く、大学の授業についていけない、という問題が起こってきたことに対する措置です。「進路の手引き」にも書いていますが、指定校で大学に入学した生徒は明石高校の後輩に対して非常に重い責任があります。もし、大学で成績不振であったり、授業欠席が多かったり(多くの大学が理由の如何を問わず、半年で5時間欠席すれば単位は認定されません。実習系の授業では、1時間でも欠席すれば単位不認定の大学もあります)、留年したりすれば、その後はその大学から明石高校への指定校推薦がなくなります。そうならないためにも、指定校推薦会議では成績だけでなくあらゆる方面から審議し、明石高校として安心して大学に送ることができる生徒を推薦します。

今回、指定校推薦の校内内定を得ることができた生徒と面談をしていると、共通点が大変多いことに気付きました。

まず、部活動で活躍したり、主将や副主将を務めている生徒が多い。やはり部活動を一生懸命に頑張る人は、勉強にも一生懸命取り組むのでしょうか。

塾や予備校に行っている人が少ない。これは「進路の手引き」での77回生の合格体験記を読んでも、同じことに気付くと思います。推薦・一般入試を問わず、また国公立・私学を問わず、いわゆる難関校に合格した人は塾に行かずに頑張りました。決して塾・予備校を否定するわけではありません。学校の予習、復習、宿題をしっかりとやってそのうえ塾・予備校に行けば、学力はすぐくつきます。しかし現実的に時間的にこれができるか？ 授業・定期考査を完璧に理解すれば、どの大学でも合格ラインに達します。今年も指定校内定をもらった人のほとんどが学校の授業と補習に全力投球して、高い学習成績を収めました。模擬試験の成績から見ても、指定校で進学しなくても一般入試で合格できる学力を有している人が、指定校推薦をもらっています。

1・2年生の人は、今一度、77回生の合格体験記を読んで、自分の勉強への取り組み方が間違っていないか、甘くないか、自己検証してみてください。

また指定校推薦での出願を行わない多くの人は、今からが勝負です。昨年も3月まで諦めずに頑張って、多数の先輩が第1志望校合格を勝ち取りました。この人たちは、最後まで授業、補習、定期考査を大切にして基本に忠実に頑張りました。

今から公募制推薦が始まりますが、第1志望でない大学を受けることにはあまりメリットを見出せません。担任の先生、保護者の方としっかり相談して、選択を誤らないようにしてください。進路指導部には、どんどん相談に来てください。朝は7時半ぐらいから、昼休み、放課後、と学年を問わず、生徒の皆さんの来室を待っています。

中間考査に全力投球！

まもなく中間考査が始まります。すでに勉強は進んでいると思いますが、当たり前のことですが、授業で習ったことしか出題されないわけですから、満点を目指しましょう。

前にもお伝えしたように、就職や推薦入試での進学に必要な調査書は基本的に3年生1学期までで、この学習成績で就職選考や推薦会議を行います。しかし出願が3年生1月以降の大学などの場合は3年2学期までの調査書を使います。推薦で決定した大学や専門学校から2学期や学年末の調査書の提出が求められる場合があります。特に推薦入試で合格後に特待生(授業料免除)などの試験があってチャレンジする際には2学期以降の調査書が必要なこともあります。大学入学後に奨学金を申し込む際には、必ず高校の最終調査書が必要になります。このような理由も念頭において3年生は最後まで手を抜くことなく、全力で勉強しましょう。

1,2年生はなおさらしっかり勉強して、3年生になって後悔しないように、学力を身に付けて調査書の学習成績を上げましょう。中間考査は返却までにやり直しをして、できなかった箇所をしっかりと修得することが、実力を身に付けることになります。今を大切にコツコツやれば自分の夢が達成できます。頑張りましょう！

3年生、とても頑張っています(^o^)

今年も、朝早くから放課後遅くまで、教室、図書室、進路指導室前廊下などで、多くの3年生が勉強する姿を見るようになりました。今年の3年生は、補習の出席率は極めて高いですが、指定校で推薦をもらった生徒がとても多く出席していることに感心します。もちろん、大学でスムーズに授業に入れるようにとの意思からだと思いますが、その姿勢は今から一般入試で頑張る大半の同級生に非常に良い影響を与えています。「受験は団体戦」です。78回生全員が、それぞれの希望進路に到達できるよう、皆で頑張りましょう！



閑話 前号で終戦80年に合わせて、進路指導とは直接関係のない記事を書きました。あの記事良かったですと校内外の多くの方から言っていただいたり、授業で話してくれる明石の歴史の話もまた書いてほしいと3年生が言ってくれたり、嬉しくホッとしました。

ありがたく引き続き「閑話」を記させていただきます。皆さん、今年の「鳥人間コンテスト」を見ましたか？ 1977年から毎年日本テレビが企画・放映している名物長寿番組なのでご存じかと思います。日本中から航空工学を学ぶ大学生を中心に、厳しい審査を通過したチームのみが出場できます。今年は31チームが出場しましたが、その中で兵庫県立大学のチームが出場を果たしました。この兵庫県立大学チームのパイロットを務めたのが明石高校75回生の後藤圭吾さんです。また1つのチームには15~20人のスタッフがいて、1年がかりで立案、設計、製作などを行います。このスタッフの1人にやはり本校75回生の幸田一希さんがいました。お二人とも高校時代から成績優秀で、第1志望大学の兵庫県立大学に現役合格されました。鳥人間という夢に向かって日々協力努力し、選ばれしグループしか出場できない栄誉を得たことは、おそらく充実した学生生活を送られていることの証しだと思います。

伝統ある明石高校は、数多くの先輩方が様々な分野で活躍されています。最近卒業したばかりの先輩も、このような活躍をされているのは嬉しいと同時に、後輩の皆さんの励みにもなると思います。

皆さんも夢を持って、実現のためのステップを意識して、豊かな人生を送ってほしいと願っています。(責o)

